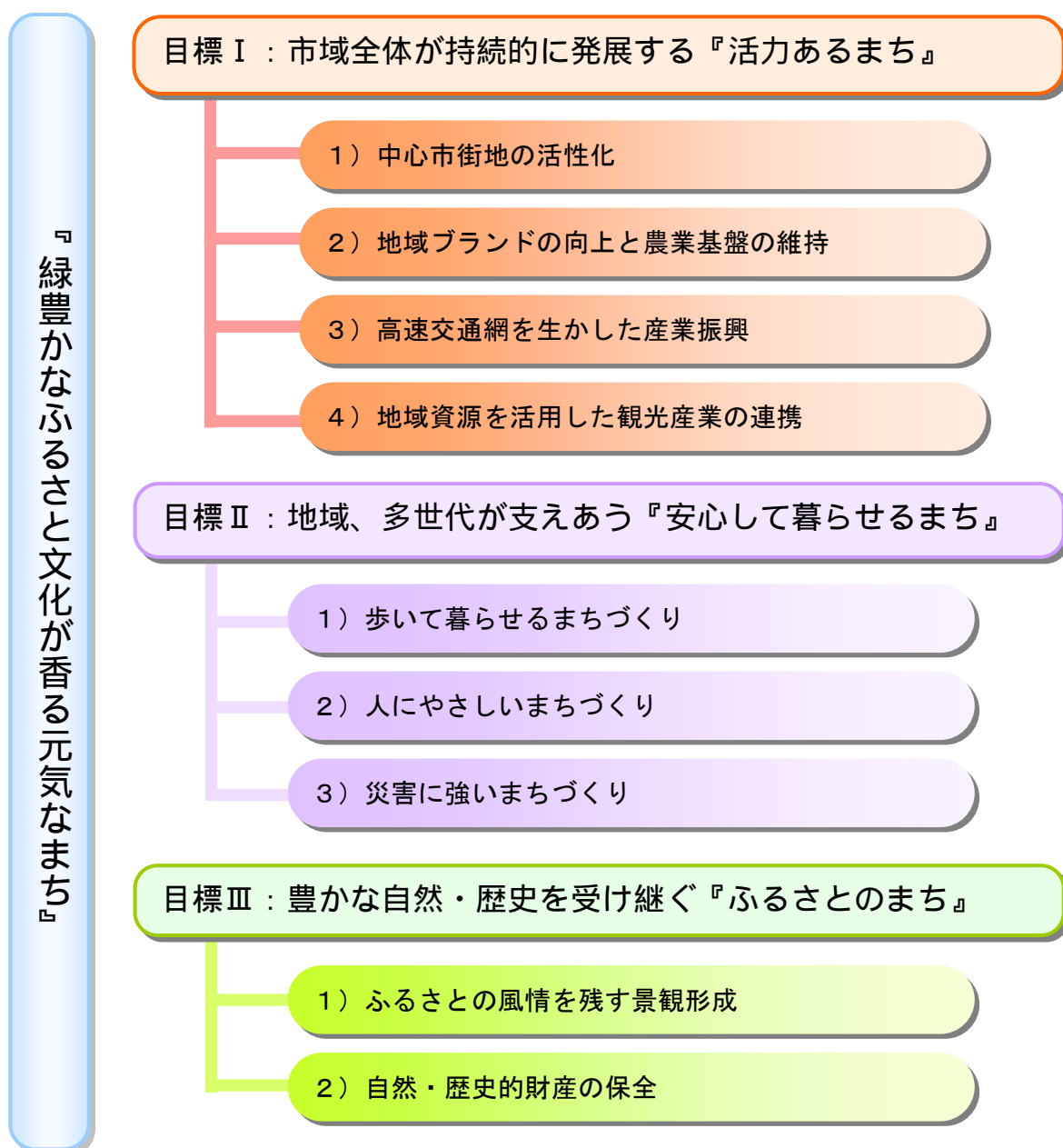
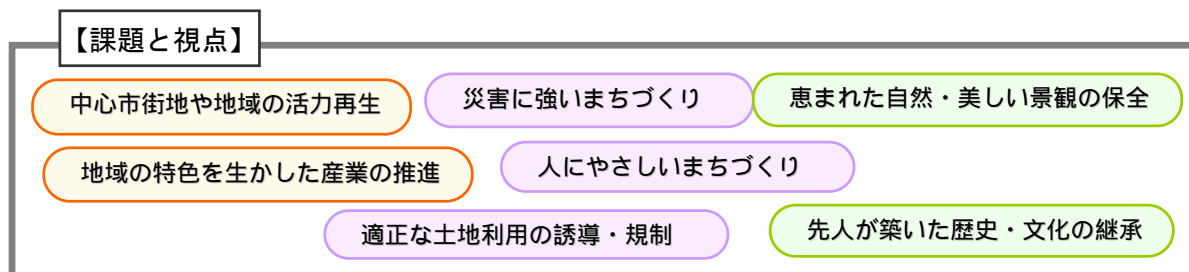


## 第6章 将来目標の設定

### 1. 目標設定のスキーム

これまで分析してきた「まちづくりの課題」や「住民意向」をふまえ、総合計画に掲げる都市像「緑豊かなふるさと文化が香る元気なまち」をまちづくりの観点から支援する目標、基本方針を次のように設定します。



## 2. 基本目標

総合計画に掲げた都市像：

『緑豊かなふるさと文化が香る元気なまち』

### 目標 市域全体が持続的に発展する『活力あるまち』

本市は、古くから人や物資が行き交い、北信州の中心都市として行政機能を担い、経済的にも発展を遂げてきました。

現在も、隣接する周辺市町村から集客する商圈構造を持ち、宅地需要があるなど北信州の中心都市として機能しています。

今後も持続的な発展に努めるため、本市が持つ、豊かな自然、歴史・風土、地方と大都市圏を結ぶ広域交通網、基幹産業を支える広大な農地などの地域資源を活かし、愛着と誇りが持てるまちづくりに取組みます。

### 目標 地域、多世代が支えあう『安心して暮らせるまち』

人口の減少や少子・高齢社会を迎え、今後もこの人口構造が進展することが予想されます。このため地域や世代を越えた交流を深め、皆で支え合う社会の構築が必要となります。

また、中心市街地や郊外に点在する集落、中山間地と様々な生活・活動の拠点がありますが、これらの地域が連携し、都市防災や都市施設の整備・ユニバーサルデザイン化に取り組み、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。

### 目標 豊かな自然・歴史を受け継ぐ『ふるさとのまち』

北信州のシンボルとなる高社山や斑尾山麓、千曲川や夜間瀬川が育む緑豊かな自然環境、先人達の営み、中山晋平や高野辰之といった文化人を育て、輩出した本市の風土は、市民が愛着と誇りを持って次代へ引き継ぐべき共有の財産です。

これらの自然や歴史的財産の保全に努めるとともに、これらを生かした活力あるまちづくりを進めます。

### 3. 基本方針

都市整備の基本目標を達成するために、目標ごとの基本方針を次のように設定します。

#### 目標Ⅰ：市域全体が持続的に発展する「活力あるまち」づくりのために

##### 【目標Ⅰの基本方針】

##### 1) 中心市街地の活性化

北信州の商圈の中心地として近隣市町村から消費者を受入れていますが、その多くは、郊外に点在する大型店がシェアを占めている状況にあります。

このため、既存商店街の環境整備、空き店舗対策や道路整備・住環境整備などを推進し、中心市街地の活性化をめざします。

##### 2) 地域ブランドの向上と農業基盤の維持

自然環境に優れた農地を有する本市では、農業は基幹産業で、きのこ、ぶどう、花きなど高いシェアを有する特産物を生産しています。

近年は、国内産や地域ブランドについての需要が高まりつつあり、今後も農地の保全や生産基盤の維持・整備をめざします。

##### 3) 高速交通網を生かした産業振興

上信越自動車道や北陸新幹線など広域を連携する交通網が整備され、特に上信越自動車道には、2つのインターチェンジを有しています。

このうち信州中野インターは、観光・サービス拠点、製造流通拠点として活用を推進します。豊田飯山インターは本市のみでなく、北信州の玄関口としてふさわしい土地利用の誘導をめざします。

##### 4) 地域資源を活用した観光産業の連携

本市の観光では、自然資源を活用した観光地や歴史・文化公園などの施設を有していますが、個々の施設の拡充や観光拠点間の連携強化による、観光誘客をめざします。

**目標Ⅱ：地域、多世代が支えあう「安心して暮らせるまち」づくりのために**

【目標Ⅱの基本方針】

1) 歩いて暮らせるまちづくり

本市の市民生活の場は、平地部から山間地まで広く、その移動手段として自動車交通に依存しています。

しかし、環境への負荷や高齢などの課題を有し、歩いて移動できるまちづくりが必要となりつつあります。

このため、鉄道やバスなど既存の公共交通を活用して、利用不便地域の改善、気軽に移動できるコンパクトなまちづくりをめざします。

2) 人にやさしいまちづくり

地域によって都市施設の整備水準が異なる現状を見据え、市域の均衡ある発展をめざし、生活道路や公園の充実など地域の特性にあわせた居住環境の形成をめざします。

3) 災害に強いまちづくり

本市は、高社山や斑尾山からの傾斜地や千曲川・夜間瀬川流域の平地部に位置していますが、周囲を山々に囲まれアクセス路が限られた地域もあります。

このため、治山・治水活動を継続して推進するとともに、道路整備による防災・避難機能、住宅の耐震化など都市防災をめざします。

**目標Ⅲ：豊かな自然・歴史を受け継ぐ「ふるさとのまち」づくりのために**

【目標Ⅲの基本方針】

1) ふるさとの風情を残す景観形成

唱歌“故郷”に歌われる風景や歴史的な建造物、里山や農地と借景となる北信五岳など、自然や文化が調和した景観は、市民が誇りを持って住むことができ、来訪者には、良好な印象を与える要素です。

このため、単に居住環境や経済活動を追求するだけでなく、地域の景観形成にも配慮したまちづくりをめざします。

2) 自然・歴史的財産の保全

緑豊かな自然や、地域・先人たちが残した歴史・文化財は、市民や来訪者に“ゆとり”と“うるおい”を与え、誇りと愛着をもつことが出来ます。

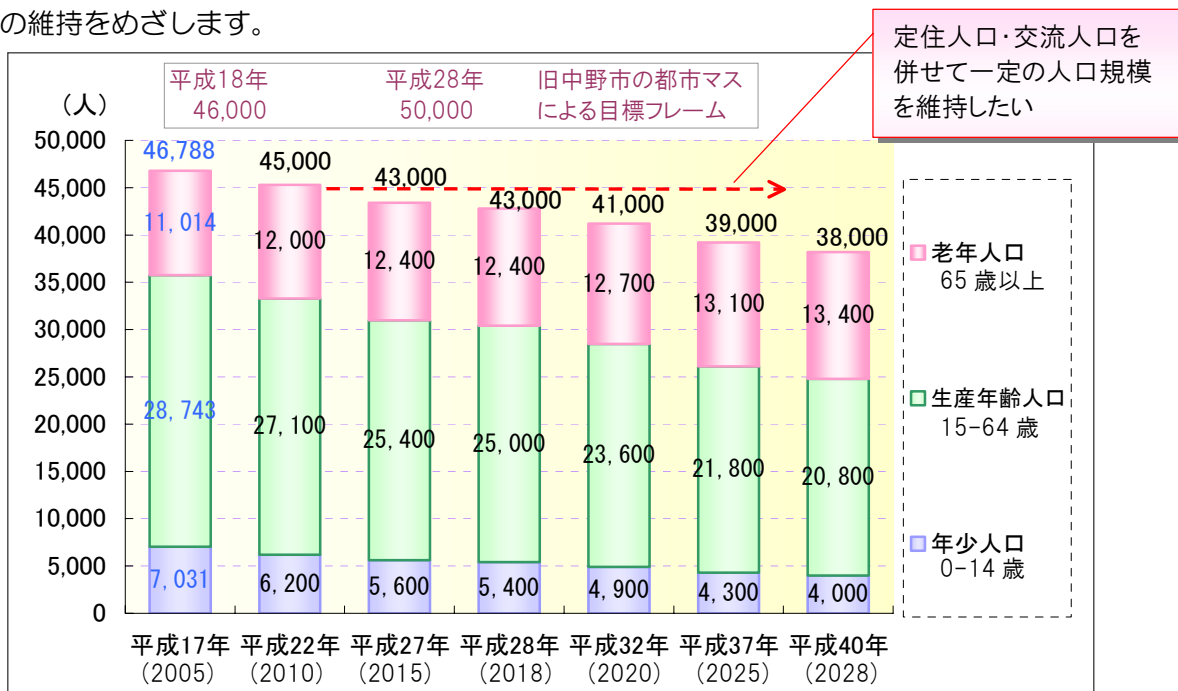
この自然・歴史的財産の保全に努めつつ、自分たちで新たな文化を創造するまちづくりをめざします。

#### 4. 将来フレームの検討

旧中野市の都市計画マスタープランによる目標設定当時と比較して情勢が大きく変動し、人口は減少に転じています。

平成17年国勢調査による人口は約46,800人で、目標年次（平成40年）の人口を推計すると、大幅に減少することが予想されます。

このため、定住人口を維持するための環境整備や来訪者など交流人口の増加に努め、一定の人口の維持をめざします。



※平成17年は国勢調査による実数／  
 平成22年以降は日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)国立社会保障・人口問題研究所  
 平成28年・平成40年は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値をもとに算出した推計値

図. 中野市の人口フレーム

#### 参考) 中野市総合計画による人口フレーム

中野市総合計画では、目標年次(平成28年)の人口を約45,000人と想定しています。また、国土利用計画も総合計画と同じ人口フレームを想定しています。

表. 中野市総合計画の人口フレーム

区分	実績値		推計値		
	平成12年	平成17年	平成23年	平成28年	
	2000年	2005年	2011年	2016年	
総人口	47,845	46,788	46,247	45,361	
年齢3区分別人口	0-14歳	7,768	7,194	6,889	6,498
	15-64歳	29,976	28,879	27,747	26,195
	65歳以上	10,101	10,715	11,610	12,668
	0-14歳割合 (%)	16.2	15.4	14.9	14.3
	15-64歳割合 (%)	62.7	61.7	60.0	57.7
	65歳以上割合 (%)	21.1	22.9	25.1	27.9
世帯数	14,204	14,589	15,527	16,285	
平均世帯人員	3.37	3.21	2.98	2.79	

※平成17年は人口と世帯数のみ国勢調査速報値で、年齢3区分別人口はコーホート要因法による推計値。

※平成23年、28年はコーホート要因法による推計値。